

# 第4回「日常診療交流会」のご案内

保険医協会では、会員が多彩な工夫・アイデアで行っている日常診療の経験を交流する「日常診療交流会」を開催致します。今回は医療、医学の交流・交換の場をめざして、医科と歯科の両協会の共催となりました。

ご参加をお待ちしております。

**記念講演 13時～14時半**

## ビスフォスフォネート系薬剤の投与を受けている患者さんの顎骨壊死

講師

九州大学大学院歯学研究院教授

**中村 誠司 先生** (九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座)

ビスフォスフォネート（以下BP）系薬剤は高い骨吸収抑制作用を有し、骨吸収亢進を呈する様々な骨代謝疾患において有用性が報告されています。骨粗鬆症治療の第一選択薬としての使用をはじめ、腫瘍による高カルシウム血症、固形癌の骨転移、多発性骨髄腫においても、骨痛や骨折などの合併症の抑制目的で癌の支持療法として広く推奨されています。

近年、BP系薬剤の副作用のひとつとして顎骨壊死が報告されております。現時点では、発症機序が明確ではなく、予防法や対処方法も確立されておらず、医師や歯科医師の間で不安感が広がっているのが現状です。BP系薬剤による顎骨壊死は、発生率は低いものの、極めて難治性であるため、発症の予防が第一です。そのため、医師、歯科医師、薬剤師による的確な連携と、適切な対応が求められています。

日本でもBP系薬剤による顎骨壊死の予防や、発症した場合の適切な治療・管理について対応のガイドラインが作成されました。さらに最近では、発症早期に適切な対応を行えば治癒も可能であることが判ってきました。今回の講演では、BP系薬剤による顎骨壊死に関する最新情報を語っていただきます。

とき

2010年6月13日(日)

午後1時～午後4時半

参加費無料！！

ところ

福岡国際ホール

(西日本新聞会館16F)

福岡市中央区天神1-4-1

電話 092-712-8855

**演題発表 14時40分～16時10分**

- ①「歯科のインプラントとは、どのようなものか？」 加藤明彦氏【歯科医師】
- ②「歯科の保険診療の現状」 浦川 修氏【歯科医師】
- ③「スタッフ同士の相乗効果」 小野 修氏【胃腸科クリニック総合職】
- ④「間接リウマチにおける医科歯科連携」 今井 一彰氏【医師・みらいクリニック】
- ⑤イビキ・無呼吸を伴わないUARSで、口腔内装置の効果をPSG検査で検出できた1症例 福留武朗氏【医師・ふくおか睡眠クリニック】
- ⑥私が抗酸菌剤をよく使うわけ 和田文夫氏【医師・整形外科クリニック】

⇒返信先 FAX:092-473-7182 6/13(日)『日常診療交流会』申し込み

氏名

(参加人数 名)

御住所

TEL

FAX

**福岡県歯科保険医協会**

〒812-0016 福岡市博多区博多駅前1-2-3 博多駅前第一ビル8F

TEL 092-473-5646/FAX 092-473-7182 <http://www.fukuoka-sk.org/> [fukuoka-sk@doc-net.or.jp](mailto:fukuoka-sk@doc-net.or.jp)